

尚々当年ハ御参府被成候哉

但御子息御下候哉承度候

六郎右衛門妻子之分ハ弥可為

御厄介と存候迎候儀候間

御介抱被成可被遣候、追付御

吉事可申進候、以上

幸便条一筆令啓上候

先以御家内御堅固被成

御座候哉承度存候、拙者

家内堅固罷在候間

御心安可被思召候、其以後以

書状も不得御意候、物遠

御無音罷過候、去々年_者

両度迄預貴札、殊更

結構成板竹など被掛

御意候、誠遠路御心入之段

別_而過分至極不浅候

秘藏仕致所持候處_ニ

去年二月朔日類火

初手_ニ逢申候故不残焼

失仕候、其後_者町屋久々

罷在旁手前取紛

乍存御無沙汰背本意候

心底少も疎意無之候

将又御同名六郎右衛門事_{仁兵衛事}

去年より伊丹大隅守殿

知行所甲州之内銀山

見立候_而被仰付罷在候山

随分能候由少宛銀出候へとも

未存様_ニ無之候、此山之儀_者

御老中様へも大隅守様被

仰上候_而被仰付候御事候故

此上ハ六郎右衛門仕合次第_ニ候

六郎右一人山頭_ニ罷成候_而

仕候、唯今迄大分金子も
入候へとも其段相調候間
可御心安候、猶追_而御吉左右
可申伸候、恐惶謹言

松田治左衛門

三月五日

□□（花押）

大屋九右衛門様

人々御中